

世界患者安全の日



9月17日は
世界患者安全の日です

「世界患者安全の日 (WPSD: World Patient Safety Day)」とは、患者安全を促進する事への人々の意識・関心を高めることを目的として、2019年の世界保健機関 (WHO) 総会にて、毎年9月17日を「世界患者安全の日」と制定されました。

2021年度

テーマ：安全な妊産婦・新生児ケア
スローガン：安全で尊敬される出産のために今すぐ行動を

世界では毎日、約 5400 件の死産が発生し、810 人の女性が命を落とし、6700 人の新生児の命が失われています。

このことは、COVID-19パンデミックによる医療サービスの中断がさらに状況を悪化させている中で、特に重要です。



大阪医科薬科大学病院はOGCS・NMCSに参画する医療機関の一つです。

OGCSとは、産科救急・母体搬送を円滑に行うための連絡調整システムです。

NMCSとは、低出生体重児や生後間もない赤ちゃんの診察を円滑に行うためのシステムです。

当院では、新型コロナウイルスに罹患された妊婦専用病室を確保するために病床やスタッフの配置を調整し、病院一丸となって対応しています。

9月17日、スタッフは「世界患者安全の日」のテーマカラーであるオレンジ色のマスクをつけて勤務しています。

大阪医科薬科大学病院 医療安全推進室

9月17日は『世界患者安全の日』です。
当院では、患者安全に対する職員の関心や意識を高め、国際的な理解をさらに深めたいと考え、9月17日を含む週を『世界患者安全週間』とし、病院全体で活動しました。



院内にはポスターを掲示し、正面玄関と6号館入り口にイベントカラー(オレンジ色)の花を設置、職員にはオレンジ色の医療用マスクを約 1,500 枚配布、世界患者安全の日に着用しました。



今年度のテーマのもと、産科・生殖医学科や新生児科による医療安全研修会をハイブリッド形式で開催し、世界患者安全の日や本院の取り組みについて理解を深めました。